

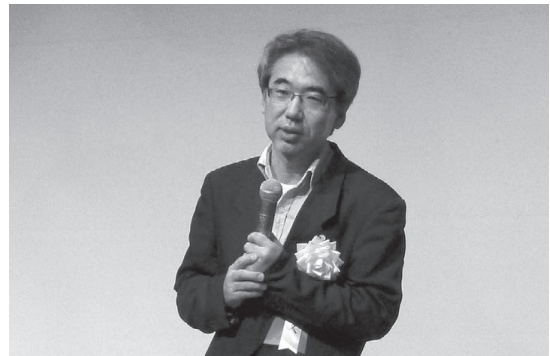
2012-2013年度 IM第2組報告

吹田RC 会長 **石井 博章**
IM実行委員長 **川上 浩邦**

テーマ: 奉仕を通じて平和を
ホストクラブ: 吹田ロータリークラブ
日時: 2013年2月2日(土) 14:00~17:00
場所: ホテル阪急エキスポパーク
参加登録: 448名
出席者数: 210名+ローターアクト6名

高島Gより「田中作次RI会長のテーマに則るIMを」とのご指示があり、RIテーマをそのまま今回のIMのテーマとしたのですが、平和を語る講師の人選に苦勞をしました。誰もが望む「平和」ですが、それぞれの立つ位置が異なり、思い描く道筋が様々なだけに共有、共感が持ち難い。批判、裁断が論の前面に出て来てはロータリーに馴染みませんので難渋しました。そこで、奉仕の先にある明るさ、温かさを小さな平和と呼ぶならば、それは共有、共感できるのではないかと考え、「奉仕を尽くせば平和の明かり」と少しテーマを動かし、奉仕の人を講師に求めました。ミャンマー在住の小児外科医、吉岡秀人氏を探し当て、招聘講演となった次第です。

第2次世界大戦で30万人の日本兵が送り込まれ、19万人の命が散ったミャンマーへ1995年遺族たちの慰霊団と同道し、乞われて全く何もないところから一人で始めた医療活動を3年、一度日本へ戻り研修後、2003年より今日までミャンマーで年間2000件の手術を行い、1万人以上の幼い命を救ってきた正に全身全霊を賭けて奉



仕に尽くしておられる48歳の小児外科医です。圧巻の講演でした。地鳴りを響かせ胸の奥に迫り来る迫力がありました。色白で瓜実顔のおちよほ口から優しい言葉が語られているのに、圧倒されたが如く、会場は寂として声も無し。

「私の出会ったいのちの記憶」と題して凄まじい症例スライドが5例供覧され、劣悪な医療設備、環境の中での奮闘振りに驚嘆し、エイズで親を亡くしたり貧困で人身売買の危機にある子供達150人余りを預かる施設を建て、運営する活躍振りに感嘆しました。

大変感銘を受けた講演なのですが、吉岡氏が冒頭と最終、2度に亘って訴えられたのは、「現在の若者は皆さんの背中を見えています。本物を求めています。一人でも若者が貴方の傍に来たら、貴方は伝えるものを持っている人なのです。この日本をどうすれば良くすることができるのか、それを思うなら若者に目標となる背中を見せて下さい。ご自分を磨いて背中を見せてやって下さい。それが先往く人の務めだと思います」でありました。

名刺交換会を少し膨らませたテーブルミーティングを、講演に先立って30分の短時間ですが開催しました。「IMで新たなお知り合いを!」21の丸テーブルに各RC1人づつと吹田RCのテーブルマスターが座り、急ぎテーブル名簿を作ってコピー、自己紹介と一つのテーマで懇談の一時を持ちました。